

可能助動詞“会”“能”“可以”に関する「理解可能なインプット」作成の試み —教員アンケート結果を踏まえて—

An Experimental ‘Comprehensible Input’ Approach to the Potential Auxiliary Verbs ‘hui’, ‘neng’, and ‘keyi’ Using Results From Teacher Questionnaires

安本 真弓・吉田 泰謙

YASUMOTO Mayumi · YOSHIDA Hiroaki

要 旨

本稿は、2017年12月から2019年2月までの期間に計2回実施した中国語可能表現の教室指導に関する教員アンケート（中国語教育に従事する大学教員、計32名（計24校）を対象に実施したアンケート調査）をもとに、その集計結果から浮き彫りとなった様々な問題点を分析したうえで、学習者の立場から考えた「理解可能なインプット」を提示する。具体的には、第二言語習得理論のなかで扱われる「理解可能なインプット」に対して、本稿独自の観点を加えたうえで、可能助動詞“会”、“能”、“可以”の教室指導に関する新たな「理解可能なインプット」の考案を試みる。

キーワード：可能助動詞，第二言語習得，理解可能なインプット，教室指導，教員アンケート

1. はじめに

可能表現は一般にモダリティ（「法相」あるいは「様相」ともいう）に属すとされる。また、澤田（2006：48）によれば、モダリティは「事柄（すなわち、状況・世界）に関して、たんにそれがある（もしくは真である）と述べるのではなく、どのようにあるのか、あるいは、あるべきなのかということを表したり、その事柄に対する知覚や感情を表したりする意味論的なカテゴリーである」とされる。こうした認知言語学的観点からの定義を踏まえて言うならば、可能表現が表す意味は、いわば間接的なもので、直接目視することのできない話者の「心的態度」とされているため、可能表現に関連する文法カテゴリーは学習者が第二言語を学習するうえで習得しがたいものの1つとなっている。

中国語の可能表現も同様に、話者の「心的態度」を表している。加えて、その表現形式が多様多様であるゆえに生じ得る各表現形式間の相違は何かという点で、学習者が中国語可能表現を習得する際の大きな障壁となっているといわれる。そこで、本稿では、助動詞“会”、“能”、“可以”を中心とす

る中国語可能表現について、各表現形式間の意味的相違を教室指導においてどのように教授したらより効果的であるか、第二言語習得にかかわる「学習環境要因」の1つである「教授法」¹⁾を論じたい。

2. 「理解可能なインプット」

第二言語習得理論のインプット仮説では、自然環境での習得と教室環境での習得の両方を扱っているが、そのなかで「理解可能なインプット」という用語が頻繁に使われる。この「理解可能なインプット」について、白畑、若林、村野井（2010：31）は「学習者が理解可能な状況で、自分が今持っている知識より、少しだけレベルの高いインプットを受けると、無意識に習得が起こるのである。今、持っている言語能力のレベルを*i*とすると、習得が最も適切に起こるために必要な『理解可能なインプット (comprehensible input)』のレベルは*i*+1となる」と定義している。パッツィ・M.ライトバウン、ニーナ・スパダ（2014：110）では、さらに「*i*+1」について「『*i*』は既に習得した言語レベルを表し、『+1』はそのすぐ次のレベルの言語（語・文法形式、発音の側面）を表すとえ」であると解釈している。Diane Larsen-Freeman, Michael H. Long (1995) やレスリー・M.ビービ編（1998）などからもほぼ同様の記述が確認できるが、簡潔に言うならば、先行研究で使われている「理解可能なインプット」とは、学習者が今持っているレベルを少し超える内容のインプットを行うことを指す。

一方で、学習者が能動的に言語習得に取り組むと仮定するならば、目標言語（の文法など）を演繹的に学習すると考えられる。こうした状況における教室環境での教師の役割として考えるべき点（教師が学習者に対してどのような内容を指導するか）については、陸俊明（2005：58）が次のように指摘する。“我们老师不能光考虑我怎么教，还一定得从学生怎么学的角度，来安排讲授内容，来考虑怎么教的问题”（「われわれ教師は自分自身がどう教えるかのみを考えるのではなく、学習者がどう学ぶのかといった視点からも教授内容をアレンジし、（それを）どう教えるかといったことにも必ず配慮しなければならない」筆者訳）。つまり、教室環境（教室指導）におけるインプットは、学習者の立場に立って作成された指導内容で、学習者にとって「理解可能なインプット」でなければ、適切なものとはならない。清水（2009：235）は「学習者が肯定証拠として受け取るインプットのなかにも、学習者を誤った仮説へと導くインプットがあることも指摘しておきたい」と述べており、これを「不適切なインプット」としている。

こうした指摘を踏まえ、本稿では、教室指導における「理解可能なインプット」を次のように定義したうえで、以下の議論を進めたい。

教室指導のなかで、学習者がその習得過程において混乱をきたさない、教師が誤った仮説へと導くことのない、特定の学習目標を達成できる言語習得（言語運用能力の習得も含む）の手助けとなり得る学習指導内容

可能助動詞“会”“能”“可以”に関する「理解可能なインプット」作成の試み—教員アンケート結果を踏まえて—

3. 教員アンケートから見えた問題点

本稿の研究課題については、これまで平成29–31年度科研費基盤研究（C）「現代中国語における可能表現の学習効果—導入及び習得データに基づく実証分析」（課題番号：17K02900，研究代表者：安本真弓）のなかで、2017年度から2018年度にかけて、日本人大学生を中心とする中国語学習者を対象とした中国語可能表現「測定テスト」²⁾と中国語教育に従事されている大学教員を対象とした「教員アンケート」を計2回実施し、中国語可能表現に関する学習者の習得状況や教員による教室指導における現状と課題等を調査、分析してきた。

教員アンケート調査では、現時点で北海道から九州までのあわせて24大学にのぼる計32名の先生方（氏名割愛，担当クラス総数84クラス）よりご協力賜り，大変貴重なコメントやご意見を数多く寄せて頂いた³⁾。そのなかで，本稿では次に挙げる問題に焦点を絞って取り上げ，教員アンケート調査から見えてきた課題を浮き彫りにし，その分析を行ったうえで，可能助動詞“会”，“能”，“可以”に関する「理解可能なインプット」を提示したい。

アンケート調査にご協力頂いた教員が担当授業で使用される，大学生をおもな学習対象者として刊行された中国語教科書で記述されている可能助動詞“会”，“能”，“可以”の解説と用例（以下，可能助動詞の「現行インプット」という）を用いた教室指導のなかで，教授する側（教員）が感じていること（指導内容の適否），またその教室指導のもとで教授される側（学生）が示している反応（習得状況の程度）

以下，教員アンケートの設問⁴⁾とその回答内容⁵⁾を紹介したうえで，そこから見えてきた現状や課題を要点として挙げ，分析を行う。

〈設問A〉

ご担当クラスにおいて可能表現を教授される際に，どのように指導されているかお聞かせください。いま使用されている教科書に記載のある解説や用例以外に，補充説明しているものがある，または補充プリントなどを用いている場合は，その内容についてもお聞かせください。

表1 〈設問A〉に対する回答内容と要点

〈設問A〉 回答内容	要点
・ 指導には，教科書の説明と例文を用いるが，例文がやや不適切だと感じる場合は，身近な場面で使えるものや簡単な例文を提示して説明する	教科書に記載のある用例以外の例文を補充している

<ul style="list-style-type: none"> ・我会根据自己所掌握的知识对三者的用法进行更加细致的说明, 并且举出更多的例句…… ・……の可能表現において, 説明が極めて簡単で, 否定形の表現が不十分であって, 理解してもらえるために, 説明を加えて, 例を増やしたり, 練習問題を書いたりしています 	教科書の記載内容だけでなく, 教員による補足説明と解説を行い, 例文も補っている
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に解説はなく, 用例も2文ずつしかないため, 理解をさせるためにはやはり補助プリントを使わなければ, 難しいと思います 	教員が補充プリントを作成している

〈設問A〉は, 中国語クラスで使用している教科書に対する, いわば「満足度」を測るためのものである。この設問に対して, 32名中19名の教員が教科書以外の内容を補足していると回答している。この結果と表1が示す通り, 教科書に挙げられている用例に対して不適切だと感じている教員や, 教科書の文法説明などにやや不十分さを感じている教員が数多くいることもわかる。

〈設問B〉

ご担当クラスで使用されている教科書に関して, その解説内容や用例などで改善してほしい点, 気になっている点などがあれば具体的にお聞かせください。

表2 〈設問B〉に対する回答内容と要点

〈設問B〉 回答内容	要点
<ul style="list-style-type: none"> ・比较难的地方主要出现在前期的教学中。会和能, 有能力高低上的区别。但是这种能力高低上的区别对于学生而言存在个人认识上的差异。……我只是觉得在中高级再讲这个会和能的区别的时候, 往往被学生问到能力高低应该如何具体划分, 有感而发 ・“我能游一百米。”など数量を持つと技能でも“能”になることに関し, 納得する説明を与えられない。それから, 自身が非ネイティブなので, 微妙な例になると自身も自信を持ってこれを使いなさいということができない ・やはり「我会游泳。」と「我能游五十米。」の違いについて…解説しても学生からの反応がいまひとつである ・「会」は学習や練習を通じて習得した「能力」, 「能」は能力のレベルをいうとき, あるいは客観的条件を満たしている場合, と説明がされていて, 以下の二つの例文が挙げられているが, なぜ同じ「泳ぐ」なのに片方は「会」でもう片方は「能」なのかの説明がもう少し欲しい。我不会游泳。她能游两千米。 	“会”と“能”の意味的特徴の違いを説明しづらい

<ul style="list-style-type: none"> ・能（可能）と可以（許可）の違い ・学生が現実のコミュニケーション場面で何をどのように話せばいいのか判らないという問題がある ・“能”についての解説：「(能力があって) ~できる」, 「(条件が許して) ~できる」, “可以”についての解説：許可「~してもよい」, 可能「(条件が整って) ~できる」, ……いずれも後者の解説はわかりにくいと思う 	<p>“能”と“可以”の意味的特徴の違いを説明しづらい</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・前後関係のない文（例えば：日本語を中国語に訳しなさい）について、どちらでもいいよと答えたらかえって混乱する時がある ・「教科書A」⁶⁾には“可以”は許可, “能”は能力だとするが, 許可にも“能”は使える。教科書により説明が違うので学生が混乱しやすい。“能”“可以”の違いを表す適切な例文は一体どういうものなのか。そのようなものを示しつつ……統一された解説を行えばよいが…… 	<p>より適切な例文や文脈（使用場面）を提示する必要があるとの指摘</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・文法説明をする場合、正確に伝えようとする専門用語が多くなり混乱を招くので、如何に正確に簡略化して伝えようとする点 ・似通ったところの背景に隠されている区別を理解してもらうのは難しい 	<p>専門用語の分かり難さに関する指摘</p>

〈設問B〉では、使用している教科書について〈設問A〉からさらに踏み込んで、具体的にどういった問題点があるかをたずねている。表2から見えてくることは、多くの教員が現在使用している教科書の解説・説明で用いられる専門用語や、可能助動詞“会”、“能”、“可以”の用法の違いについて、何らかの疑問や教え難さなどを感じている点である。

〈設問C〉

ご回答頂いた方法で教授されるなかで、学生から何か質問を受けることはありますか。具体的にお聞かせください。

表3 〈設問C〉に対する回答内容と要点

〈設問C〉 回答内容	要点
<ul style="list-style-type: none"> ・“我会游泳。”“我能游一千多米。”という二つの文があるが，“我会游一千多米。”は使えるか ・「会」と「能」の違いは何ですか？「会游泳」と「能游一百米」⁷⁾の違いは何ですか？ ・为什么“我会吃辣的”不能说？ ・「能」と「会」と区別が分かりにくい ・各助動詞の意味領域の相違について，我会游泳。と我能游五十米。⁸⁾の違いがわからない人が多く，質問がいつも多発しています ・なんで，「中国語の新聞が読めますか」は「你能看中文报吗？」，「你会看中文报吗？」ではない？ 	“会”と“能”の意味的違いに関する質問
<ul style="list-style-type: none"> ・「我可以/能问你一个问题吗？」というセンテンスはなぜ「可以」と「能」両方使えますか？ 	“能”と“可以”の意味的違いに関する質問
<ul style="list-style-type: none"> ・“可以”は「許可」とだけ教えているので，“会”と“能”がどう違うのかという質問が一番多い 	“可以”と“会”，“能”の意味的違いに関する質問
<ul style="list-style-type: none"> ・「習得」と「能力」の区別とは？ ・「英字新聞を読める」は「能力」ではなく，「習得」であると学生が思っているようだ 	専門用語の分かり難さに関する指摘

〈設問C〉は，使用している教科書（及び補足説明，補充プリントなど）による指導で，学習者がどのような反応を示しているかをたずねている。表3で挙げた学習者の質問内容からは，現在の指導法では“会”と“能”，“可以”の用法の違いを習得するのは容易でないことが伝わってくる。なかでも，表2で挙げた教員コメントにもあるように，用語の分かり難さ（「習得」と「能力」の違いなど）による要因で，“会”と“能”の区別がほとんど把握できていない現状が浮き彫りとなっている。

〈設問D〉

教科書以外で補充している内容や資料などがありましたら，具体的にご教示ください。また，もし可能なようでしたら差し支えない範囲で，先生ご自身で作成された補充プリントや資料などをご提供ください。

表4 〈設問D〉に対する回答内容と要点

〈設問D〉 回答内容	要点
<ul style="list-style-type: none"> ……特別是一些只能用这个（或这两个）不能用那个的例句，如“能来上课——*会来上课”。在利用PPT进行讲解时⁹⁾，我会用图片展示其中两个都能用时的语义差别，如“不能走路——不会走路”…… 	パワーポイントを使用している
<ul style="list-style-type: none"> 「文法参考書A」¹⁰⁾の他人が見てできるかできないかが判断できるものは“会”，できないものは“能”の説明を使わせてもらっている 	文法書を参照している
<ul style="list-style-type: none"> 主に例文の補充 他の複数教科書の可能助動詞の例文を問題として，学生に練習させます 	例文を補充している
<ul style="list-style-type: none"> 「会」と「可以」は，過去や実現したことの否定であっても，“不”を用い，“没（有）”を用いない 	“会”と“可以”に関する指導内容で，その否定形から“能”との違いを区別する指導を行う
<ul style="list-style-type: none"> 当該クラスにおいて，「相手に向かってのすすめ」の「可以」，「必然的に可能性がある」の「会」，単独で使える「会」，「推測」の意味においての「能」の使い分けを教材に補充して教えました 1，日本語と連想させることで覚えてもらった。「できる3兄弟」と名付け，“会”について，<u>会</u>得してできる（会得→マスター）“能”について，<u>能</u>力があってできる“可以”について，<u>可</u>うされてできる。2，選択問題，翻訳問題，また3兄弟を取り入れた会話を練習する 	“会”，“能”，“可以”に関する指導内容

〈設問D〉は，教科書の内容だけでは足りないと感じた際に，教員がどのような内容や資料を補足・補充しているかをたずねたものである。ここからは，教科書の他に，文法書を参照する，教員自身が持ち合わせている文法知識で説明を加える，補充プリントを作成する，などといった取り組みや工夫をされていることがわかる。

〈設問E〉

これまでのご経験のなかで可能表現を教授される際に，比較的教え易いと感じる点とやや教え難いと感じる点をお聞かせください。

表5 〈設問E〉に対する回答内容¹¹⁾と要点

〈設問E〉回答内容	要点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 他会游泳。——他能游泳。*他会游1000米。——他能游1000米。類似上面的例子，“游泳”可以看作是“技能”，而“游1000米”则不易被看作是技能，也就是能愿动词后的动宾结构中宾语的形式会影响到能愿动词的使用，这一点对学习者来说不容易理解和掌握 ・ “我能游一百米。”など数量を持つと技能でも“能”になることに関し，納得する説明を与えられない 	<p>“能”の意味的特徴をどう指導したらよいか</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ “会”と“能”の違いについては難しい。「練習した結果できるようになった能力」など，“会”によく見られる説明は教授者にとって困る ・ 内在的能力を表す“能”と技術などを習得してできる“会”が両方使える場合の違い。例：他能说汉语。他会说汉语。 ・ 能力を持っていてできるの「能」と「会」の相違の説明 我会游泳 我能游五百米 ・ 「能」「会」の違いについて。「能」は能力と条件の説明しかなく、「会」に関しては習得してできるという説明しかない。この説明だと「能力」を表す場合は「能」「会」は同じと理解してしまう可能性がある 	<p>“会”と“能”の意味の違いをどう指導したらよいか</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能助動詞のうち，以下のようにどちらでも使用でき，意味の差異が明確に現れにくい場合，教えるに感じます。例えば“我能借一下你的笔吗？”と“我可以借一下你的笔吗？” ・ 能と可以，どちらも使用できるケース 	<p>“能”と“可以”の意味の違いをどう指導したらよいか</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「会」，「可以」と「能」との相違点，「会」に対する解説における「技能」の定義，条件可能として“能”と“可以”の違いは教えるに感じることがある。また，“会”は技能を表すと教えているが，日本人学生には技能と能力の違いが分かりにくいようである 	<p>“会”，“能”，“可以”の意味の違いをどう指導したらよいか</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ やはり習得，能力具体的に何を指すのか 	<p>用語解釈に関する疑問</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前後関係のない文（例えば：日本語を中国語に訳しなさい）について，どちらでもいいよと答えたらかえって混乱する時がある 	<p>文脈（使用場面）を提示する必要があるか否かに関する指摘</p>

〈設問A-D〉はおもに，現在使用している教科書に基づいた指導内容に関する質問だったが，〈設問E〉では，教科書の内容とは別に，教員が可能表現を指導しているなかで，日頃どのような思いを抱いているかをたずねてみた。表5で挙げた教員のコメントからは，“会”，“能”，“可以”について，“会”と“能”，あるいは“能”と“可以”の用法の違い，さらには三者間の用法の違いをどう指導し

可能助動詞“会”“能”“可以”に関する「理解可能なインプット」作成の試み—教員アンケート結果を踏まえて—
たらよいか、現在使用している教科書のみならず、現行の他の教科書や文法書、学術論文からも、その答えを導き出せていないことが窺える。

以上、今回の教員アンケート調査¹²⁾を通して、明らかとなった可能助動詞の「現行インプット」に関する問題点をまとめると、次の通りである。

- (1) 可能助動詞の「現行インプット」について、教員側が十分に満足しているとは言い難い。そのおもな理由としては、専門用語の分かり難さ、挙げられている用例がどういった場面（文脈）で使用できるのか示されていない、“会”、“能”、“可以”の意味的違いに関する解説が不明確、などが挙げられる。
- (2) 可能助動詞の「現行インプット」による教授を受けた後、学生側からの質問が数多くあることから、「現行インプット」は学習者にとって「理解可能なインプット」からは程遠く、まさに清水（2009）が指摘する「不適切なインプット」であると言わざるを得ない。
- (3) 現在刊行されている教科書による「現行インプット」の問題点に加え、教員自身も実際にどういった場面（文脈）で“会”、“能”、“可以”を使い分けるのか、的確に説明をする術を持ち合わせていない（換言すれば、先行研究においてその教授法を提示できていない）。

こうした課題と教員アンケートによる様々な指摘を踏まえ、次節では“会”、“能”、“可以”の用法の相違点を分かり易く提示した、「理解可能なインプット」を目指した教案（試作）をデザインしたい。

4. “会”“能”“可以”の「理解可能なインプット」試案

教室指導において注意すべき点として、赵金铭总主编（2010：184）は“在语法教学环节，教师的根本教学目的不只是帮助学习者掌握要学习的语法结构，更重要的是让他们知道这个结构应该在什么语言环境中，面对什么样的对象使用”（「文法指導において、根本的目標は、学習者が習得すべき文法構造（言語形式）を把握できるよう教師が手助けするだけでなく、より重要なことは、教師が学習者にその文法構造（言語形式）をどういった場面で、どのような相手に対して使用するのかを理解させることである」筆者訳）との見解を示している（程棠2008などでも同様の指摘がなされている）。こうした指摘を踏まえ、安本、吉田（2019）では、試作段階のものとして可能助動詞“会”、“能”の教案（指導要領¹³⁾）を提示している。本稿ではこの教案をベースとし、前節での分析を踏まえたうえで、可能助動詞“会”、“能”、“可以”の「理解可能なインプット」を提案する。以下、教室指導という視点から、パワーポイント（スライド）を用いた教案として提示する。

〈スライド1〉…単文レベル（文脈依存なし）において、“会”と“能”がともに使える用例を提示する

- ・“会”：「～ができる」 ・“能”：「～ができる」
- 我 会 开车。「私は車の運転ができる」
- 我 能 开车。「同上」
- 他 会 说汉语。「彼は中国語を話すことができる」
- 他 能 说汉语。「同上」

現在刊行されている中国語教科書はいずれも（本稿が調査した範囲では1冊も見つからなかった）、このように“会”と“能”がともに使える用例があることに触れていないが、教員アンケートの〈設問A〉と〈設問E〉に対する回答から見ても、こうした用例を取り上げる必要があると考える。実際、「測定テスト」のデータからも、“会”と“能”がともに使える設問に対する正答率が10%未満という分析結果が出ている（吉田，安本2018参照）。

〈スライド2〉… “会”が使われる場面を提示する

- ・「単純にある動作・行為や事柄ができるかどうか」を表現する場合
- ⇒通常“会”を用いる
- 我 会 开车。 我 不会 开车。
- 他 会 说汉语。 他 不会 说汉语。
- 她 会 游泳。 她 不会 游泳。
- 我 会 唱英语歌。 我 不会 唱英语歌。

呂叔湘主編（1980：369）は“会”と“能”の用法の違いを説明するなかで“初次学会某种动作或技术，可以用‘能’也可以用‘会’，但以用‘会’为常”（「はじめて習得したある動作や技術は“能”も“会”も使用できるが，“会”を用いるのが常である」筆者訳）と記述している。おそらくこれが日本で刊行されている多くの教科書や文法書で記述されている“会”に関する意味説明（可能助動詞の「現行インプット」）で用いられる「習得」の根拠となっている（短絡的に“会”＝「習得」と解釈している）と考えられるが、結果的に、教員アンケートのなかで多くの指摘があったように、学習者にとってはこの「習得」と“能”が表すとされる「能力」や「技能」との区別が付きにくい用語となってしまう。したがって、ここでは敢えて、「習得」という用語を使わないようにしている。なお、「測定テスト」では、“会”か“能”かのどちらかを正答として選択させる設問において、正答率は20-50%であった（吉田，安本2018参照）。

〈スライド3〉…“能”が使われる場面を提示する

・「ある状況や場面において、その動作・行為ができるかどうか」を表現する場合 ⇒通常“能”を用いる

我有点儿累了, 但还能开车。但：しかし；还：まだ

「私は少し疲れたが、まだ運転することができる」

在外资企业, 我们只能说英语。

外资企业：外資系企業；只：～だけ、～のみ

「外資系企業では私たちは英語しか話すことができません」

上掲の通り、呂叔湘主编（1980）では「能力が備わっている」ことを表す場合には、“会”も“能”も使用できると指摘している。また叶盼云、吴中伟编著（1999）では“表示通过学习以后具有某种技术和能力，用‘会’，有时也用‘能’（「学習を通して備わった技術や能力を表す場合，“会”を用いることもあれば“能”を用いることもある」筆者訳）と記述している（白木、邱1998、松田2015、王子佩2019などにも同様の記述がなされている）。さらに黄南松、胡文泽、何宝璋（2015）では「能力」を“天生就有的”（「先天的なもの」筆者訳）と“需要通过后天学习才能获得的”（「後天的に学習を通して獲得したもの」筆者訳）とに区分しているが、“会”が表す「習得」とは区別し、“能”が「能力」または「技能」を表す、という指摘をする先行研究は管見の限り見当たらない。その一方で「現行インプット」では一般に“能”＝「能力」・「技能」としているが、これはおそらく短絡的に“会”（「習得」）との意味的違いを示すための記述と思われる。しかし、教員アンケートからも明らかなように、「能力」や「技能」などといった用語を使用することによって学習者が混乱している（また教員側も困惑している）ことから、〈スライド3〉ではその使用を避けている。

〈スライド4〉…〈スライド3〉の続き

我能游五十米。「私は50m泳ぐことができる」

・いまの現状（状況）として、私は50mを泳ぐことが「できる」ことを表す

・また、つぎのように表現することも可能

我现在只能游五十米。

「私はいま50mしか泳ぐことができない」

ここでも同様に、「能力のレベル」や「程度」の差について触れるのではなく、「数量表現」が文中

にある場合は“能”がよく使われる、という指導を行う。

この「能力のレベル」という用語について、安本（2019）は「“能”の本質的な意味を正確に捉えていると言い難い」と指摘しているが、実際に学習者に対して「能力のレベル」を具体的に説明することは非常に難しく、たとえば“我能游五十米”や、それより距離が短い“我能游五米”でも文は成立するが、“*我会游五米”はやはり非文となるため、「能力のレベル」または「程度」の差などとは関係がないと言える。

〈スライド5〉…〈スライド4〉の続き

・もし100mを泳げるようになったならば、つぎのように表現できる
我（现在）能游一百米了。
「私は（いま）100mを泳げるようになった」

〈スライド4〉に続く形で、ここでも「距離の程度」（つまり「能力のレベル」）について触れるのではなく、「何らかの状況変化」が生じた場合に“能”を用いる、と指導する。これにより、学習者の可能助動詞運用能力を高めることも期待できると考える。

〈スライド6〉…“能”が使われる場面をさらに提示する

两点前我能回来。
「2時前までに私は戻って来ることができる」
・上記例文は「発話時の状況」について述べている

今天两点前我能回来。
「今日は2時前までに私は戻って来ることができる」
・「今日」という状況では2時前までに戻って来られるが、たとえば「明日」の状況はまた違うかもしれないと解釈することも可能

〈スライド4〉での「泳げる距離」などの「数量表現」や〈スライド5〉での「泳げる距離」などが変化した場合だけでなく、日時などの変化に対しても“能”がしばしば用いられる、と指導する。先述の通り、可能表現は話者の「心的態度」を表す意味のカテゴリーであり、身体的に直接捉えることができないため、ここでも“能”がどういった場面（文脈）で使用されるのか、より具体的な事例を提示することで、“会”との意味的違いを際立たせ、学習者の能動的な習得に働きかけ、正しい仮説

可能助動詞“会”“能”“可以”に関する「理解可能なインプット」作成の試み—教員アンケート結果を踏まえて—

へと導くよう工夫している。

〈スライド7〉…“会”と“能”の相違点をまとめる

- ・“能”は「その場・その時の状況」に応じて「都度」その動作・行為ができるかどうかを表す
 - ⇒つまり“能”の「～できる」は「臨時的」なもの
- ・“会”は一旦その動作・行為ができるようになったならば、今日であろうと明日であろうと、身の回りの状況が変わろうと、「常に」その動作・行為ができることを表す
 - ⇒いわば“会”の「～できる」は「恒常的」なもの

〈スライド7〉では、学習者の理解をより一層促すために“会”と“能”の意味特徴を抽象化し簡潔にまとめている。このスライドに続く形で、各教員がそれぞれ担当する中国語クラスの指定教科書のなかで取り上げられている“会”と“能”の用例を用いて解説を行う。

「測定テスト」では“可以”が単一正答の場合、50%以上の正答率(吉田, 安本2018参照)だったため、“可以”に関しては「現行インプット」による指導でさほど問題はないと考えていたが、今回の教員アンケート結果から、教室指導のなかで“可以”と“能”との区別、また“会”、“能”、“可以”の用法の違いを明確に説明できないといった悩みを抱えた教員が意外と多かった(表2-5参照)ことが明らかとなった。そこで、〈スライド8-10〉用いた“可以”に関する用法解説を盛り込んでいる。

〈スライド8〉…“能”が“可以”に置き換え可能なものを提示する

- ・“能”が“可以”に置き換えられる場合
 - 我有点儿累了, 但还能开车。(再掲)
 - ⇒我有点儿累了, 但还可以开车。
 - 我能游五十米。(再掲)
 - ⇒我可以游五十米。
 - 今天两点前我能回来。(再掲)
 - ⇒今天两点前我可以回来。

ここでは“可以”が「～できる」を表すことになる

ここまで取り上げてきた“能”の用例は“可以”に置き換えることが可能であるが、先行研究（黄南松，胡文泽，何宝璋2015等）において、その区別に関する記述はほとんど見られない。また、日本で刊行されている教科書のなかで“能”と“可以”の置き換えについて言及しているものは稀であり、“可以”が「許可」を表すことのみを強調している。そこで、まず〈スライド8〉では、これまで挙げてきた“能”の用例について、“能”が“可以”に置き換えられることを盛り込んでいる。

〈スライド9〉…“可以”が使われる場面を提示する

- ・一方で，“能”と異なり，“可以”には基本義として「許可」（～してもよい）の意味がある

这儿可以抽烟吗？

「ここでタバコを吸ってもいいですか」

- ・ここでの“可以”を“能”に置き換えると「可能」（～できる）の意味になる

这儿能抽烟吗？

「ここでタバコを吸うことができますか」

つまり，“能”は「その動作・行為ができるか」を表し，“可以”はその動作・行為をしてよいかどうかの「許可を相手に求める」ことを表している、という点で異なる

〈スライド8〉に続き、〈スライド9〉では“能”と“可以”が表すニュアンスの違いを明示している。

〈スライド10〉…三者の違いについて

- ・単純に「泳げる」ことを表したい場合

我会游泳。 ⇒「恒常性」

- ・例えば、今日は体調がよくて「泳げる」ことを表したい場合

今天我能游泳。 ⇒「臨時性」

- ・例えば、今日「泳げる」かどうかという許可を相手に求めることを表したい場合

今天我可以游泳吗？ ⇒「許可」

可能助動詞“会”“能”“可以”に関する「理解可能なインプット」作成の試み—教員アンケート結果を踏まえて—

〈スライド10〉では全体のまとめとして、同じ動詞（ここでは“游泳”）の前に“会”、“能”、“可以”が用いられた場合、それぞれが表す知覚や感情のニュアンスの違いをわかりやすく示している。モダリティである可能表現が話者の「心的態度」を表していることに配慮しつつ、習得が困難とされる中国語可能助動詞について、「理解可能なインプット」となるよう工夫している。

5. おわりに

本稿は、計32名の大学教員を対象に2回実施したアンケート調査とその分析結果（教員による様々な指摘も含め）を踏まえ、日本人学習者をおもな対象とする、可能助動詞“会”、“能”、“可以”の「理解可能なインプット」試案をデザインしてみた。教室指導のなかで学習者が無理なく習得できるよう工夫をしたつもりではあるが、以下に挙げるいくつかの点で、なお課題が残されていると考える。

- (1) 第二言語習得の研究方法に関して、小柳、向山（2018）が「一つの研究結果を基に、それを即教育につなげるというのは短絡的である」と指摘しているが、今回提案した「理解可能なインプット」についても、今後研究結果の一貫性を追求しつつ、常に改良を加えることで、より信頼性の高い研究結果を教育現場に還元していきたいと考える。したがって、これまでに本稿筆者が担当するクラスのみにおいて、本稿が提案する「理解可能なインプット」の一部検証作業を行っていたが、今後はできるだけ多くの中国語教員にご協力頂き、本稿が提案する「理解可能なインプット」の効果と問題点をみていく作業が必要であると考える。
- (2) 教員アンケートのなかで、可能助動詞の否定形に関する指摘（「A：現在可以打电话吗？ B：现在不能打电话。」という用例……。なぜBは“不可以”ではなく、“不能”を用いたのかについては（教授用資料にも）説明が見当らず、“不可以”の用例も提示して欲しかった）が散見されたが、この点について今回提案した「理解可能なインプット」では取り上げていない。今後は上記の検証作業を行いつつ、否定形の指導要領も追加していきたい。
- (3) 可能補語形式の「理解可能なインプット」については、筆者が担当するクラスで個別的に検証を行った結果、学習者からの評価は決して高いものではなかったため、可能助動詞“会”、“能”、“可以”との意味的、語用的区別をより明確にできるよう調整を行うとともに、教室指導での検証作業も進めていく予定である。

※本研究は平成29-31年度科研費基盤研究（C）「現代中国語における可能表現の学習効果—導入及び習得データに基づく実証分析」（課題番号：17K02900，研究代表者：安本真弓）の助成を受けたものである。

注

- 1) 津田塾大学研究グループ編(2006:52)では「学習要因」に関する記述のなかで、第二言語習得にかかわると考えられる要因を、「学習者要因」、「学習環境要因」、「社会文化的要因」の3つに分け、さらに「学習環境要因」の1つとして「教授法」を取り上げている。
- 2) 中国語可能表現「測定テスト」に関する分析結果は、2018年度実施分データについては集計中のため、本稿では2017年度実施分データを取り上げる。詳細は吉田、安本(2018)を参照されたい。
- 3) 教員アンケート調査は、これまでに2回実施している。第1回は2017年12月から2018年2月までの期間、第2回は2018年10月から2019年2月までの期間で、第1回(科研費助成初年度)はあわせて8大学にのぼる計12名の先生方(担当クラス総数、計25クラス)から、第2回(科研費助成2年度目)はあわせて16大学にのぼる計21名の先生方(担当クラス総数、計59クラス)からご回答頂いた。このうち重複分(2回のアンケートにご協力頂いた先生の人数)を除くと、実数としては計32名となる。また、アンケート調査の設問内容については、第1回はパイロット(試行)版として、第2回は改良版(おもに文言の簡潔さや表現の分かり易さ、回答時間の短縮などに配慮した修正を行った)として実施しているが、全体の枠組みとして大幅な変更はしていないため、本稿では2回分のアンケート調査結果をまとめて取り扱うことにする。
- 4) 教員アンケートの設問については、実際のものと同じ文言で掲載した場合、やや読みづらくなる部分が出てくるため、本稿では差し支えない範囲で言い回しを換えて紹介する。
- 5) 教員アンケートの回答内容については、代表的なものを取り上げる。また明らかな誤字脱字等を除き、原則として原文のまま掲載する。したがって、表記方法は統一されていない。
- 6) 実際の回答用紙には教科書名が記入されているが、ここでは諸般の事情に鑑み、「教科書A」としておく。
- 7) 実際の回答用紙には「能有百米」と記入されていたが、明らかな誤植であると判断できるため、「能游百米」に訂正した。
- 8) 実際の回答用紙には“我能有五十米。”と記入されていたが、注7と同様、“我能游五十米。”に訂正した。
- 9) 実際の回答用紙には“在…进行讲解是…”と記入されていたが、注7と同様、“在…进行讲解时…”に訂正した。
- 10) 実際の回答用紙には参考書名が記入されているが、注6と同様、「文法参考書A」としておく。
- 11) ここではおもに、本稿での教案作成に参考となり得る「やや教え難いと感じる点」を取り上げ、問題として特段取り上げる必要のない「比較的教え易いと感じる点」については割愛する。
- 12) 2回の教員アンケート調査では他に、「これまでに使用されてきた教科書のなかで、可能表現に関するもので分かり易い、または分かり難いと感じた解説や用例がありましたらお聞かせください。また、ポイントの解説や用例などで他に記載してほしいもの、学習者が混同しやすいと思われる説明・記述内容や用例などがございましたらお聞かせください」、「可能表現の導入時期について、最も適当と思われる時期(学年・学期)をお聞かせください。あわせて、この点に関して何かご意見やコメントなどがございましたらお聞かせください」、「ここまでの設問以外の内容で、何か気になっている点やご意見・コメントなどがございましたらお聞かせください」などの設問もあったが、これらの回答内容については今後の教材開発の際に参考することとし、本稿では紙幅の都合上、割愛する。
- 13) 本教案については、吉田(第二筆者)が2018年7月と2019年7月に、安本(筆頭筆者)が2019年1月に、各自担当する中国語クラスの教室指導のなかで用いてみた結果、学生からおおむね良好な反応が得られている。

可能助動詞“能”“能”“可以”に関する「理解可能なインプット」作成の試み—教員アンケート結果を踏まえて—

参考文献

- Diane Larsen-Freeman, Michael H. Long著, 牧野高吉, 萬谷隆一, 大場浩正訳1995. 『第2言語習得への招待』。東京：鷹書房弓プレス
- 小柳かおる, 向山陽子2018. 『第二言語習得の普遍性と個別性—学習メカニズム・個人差から教授法へ』。東京：くろしお出版
- レスリー・M.ビービ編, 島岡丘監修, 卯城祐司, 佐久間康之訳1998. 『第二言語習得の研究—5つの視点から』。東京：大修館書店
- 松田春奈2015. 日本人中国語学習者の誤用とその教授法・中国語の教科書の問題点について：可能・可能性を表す助動詞“能”と“会”を中心に, 名桜大学『名桜大学紀要20』：15-28頁
- パッツィ・M.ライトバウン, ニーナ・スバダ著, 白井恭弘, 岡田雅子訳2014. 『言語はどのように学ばれるか—外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』。東京：岩波書店
- 澤田治美2006. 『モダリティ』。東京：開拓社
- 清水崇文2009. 『中間言語語用論概論—第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』。東京：スリーエーネットワーク
- 白木通, 邱靖媚1998. 中国語助動詞“能”の意味, 愛知学泉大学『経営研究』第12巻第2号：349-358頁
- 白畑知彦, 若林茂則, 村野井仁2010. 『詳説 第二言語習得研究—理論から研究法まで—』。東京：研究社
- 津田塾大学言語文化研究所言語学習の個別性研究グループ編, 林さと子, 池上摩希子, 小西正恵, 島崎美登里, 関麻由美, 田近裕子, 田中幸子, 八田幸子, 春原憲一郎, 八木公子, 吉田真理子著2006. 『第二言語学習と個別性：ことばを学ぶ一人ひとりを理解する』。横浜：春風社
- 安本真弓2019. 中国語可能表現のメカニズム—“能”と“会”構文を中心に—, 跡見学園女子大学『文学部紀要』第54号：95-109頁
- 安本真弓, 吉田泰謙2019. 中国語可能表現に関する指導法試案と実践検証, 関西外国語大学御殿山語用論研究会『御殿山語用論研究論集』第5号：21-40頁
- 吉田泰謙, 安本真弓2018. 中国語可能表現の習得状況に関する考察—大学における調査結果を中心に—, 関西外国語大学『研究論集』第108号：151-168頁
- 程棠2008. 《对外汉语教学目的、原则、方法》。北京：北京语言大学出版社
- 黄南松, 胡文泽, 何宝璋2015. 《对外汉语教学语法疑难解析》。北京：北京大学出版社
- 陆俭明2005. 《作为第二语言的汉语本体研究》。北京：外语教学与研究出版社
- 吕叔湘主编1980. 《现代汉语八百词》。北京：商务出版社
- 王子佩2019. 能愿动词“能”和“会”的对比研究总数综述, 辽东学院学报(社会科学版)第21卷第1期：114-119頁
- 叶盼云, 吴中伟编著1999. 《外国人学汉语难点释疑》。北京：北京语言大学出版社
- 赵金铭总主编, 毛悦编著2010. 《汉语作为第二语言要素教学》。北京：北京大学出版社